

令和2年度 奈良市ボランティアインフォメーションセンター運営推進懇話会 会議の概要		
開催日時	令和2年12月18日（金）午後2時00分～4時00分	
開催場所	オンラインでの開催	
議 題	1 開会 地域づくり推進課長あいさつ 2 案件 (1) 奈良市ボランティアインフォメーションセンター ①平成30年度・令和元年度 事業報告について ②令和2年度事業計画について (2) その他 3 閉会	
出席者	委員	秋葉武氏、藤野正弘氏、井上芳恵氏【計3人出席】
	事務局	圓山地域づくり推進課長、栗本地域づくり推進課主査、土井地域づくり推進課協働推進係長、佐藤ボランティアコーディネーター、上本ボランティアコーディネーター、末武ボランティアコーディネーター、川崎ボランティアコーディネーター、古田ボランティアコーディネーター、事務局（地域づくり推進課）
開催形態	公開（傍聴人0人、報道関係者0人）	
担当課	市民部地域づくり推進課	
議事の内容		
1 開会 圓山地域づくり推進課長より挨拶。		
2 案件 (1) 奈良市ボランティアインフォメーションセンターについて ①平成30年度・令和元年度 事業報告について I. 平成30年度・令和元年度利用状況について 事務局から説明を行った。質問等はなし II. 平成30年度・令和元年度実施事業一覧について 事務局から説明を行った。主な意見は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・全体として意欲的に2年間取り組んでいるのがわかった。 ・ならママを応援するボランティアを昨年からはじめているが、具体的にどういうものか。 どこかの団体が自分たちの活動を紹介されて参加したいお母さん方を招き入れる、誘導するという事なのか。 →当センター登録団体のうち、5団体の方々に講師に立っていただいた。今まで登壇して活動紹介や周知活動等をしたことのない団体を選び、団体活動の底上げとなるよう選定した。その経験をしていただくことで、他へも自分たちの活動内容を伝えるという周知活動ができることを期待した。		

・団体を選ぶことや、5団体探すのは苦労しなかったか。

→生活に密着したテーマを主に考えて団体は選んだ。お母さま方が子育てをされているうえで、全く関係のないテーマにしてしまうとボランティアを身近に感じられないので、5団体ともお母さま方の生活に密着したテーマで選出した。

・過去の講座の報告の時には人が集まらないと言っていた回もあったかと思うが、今回報告してもらった2年間に関しては、いずれにしてもやり方や広報の仕方なり、登録団体も巻き込みながら工夫もされたのか、非常に参加人数や頻度も高く充実したものになっていたと思う。過去と比べ、やり方や広報を変えた部分はあるのか。

→広報的には、ホームページをリニューアルし情報量を増やした。Twitter も始めそこでも情報を発信した。また、今まで通りチラシやしみんだよりで周知している。団体などについては、登録団体に対してのメール配信を行っている。

・各講座のアンケートについて、評価指数が5段階だったり10段階だったりバラつきがあるが、それは意図があるのか。

→担当によって内容が違ったり、事業の形態や中身によっても聞き方が違ったりしている。今後は統一していきたい。

・アンケートの取り方の工夫が翌年度の事業に反映されているのではないかと思う。全国の自治体のセンターでもアンケートを実際に生かしているところは多くはないと思うので、その点でも事業が年度年度で進歩しているのかなと思う。

・他の自治体センターに比べると先駆的な社会的意義のあることが出来ていると思うので、with コロナの時代ではあるが、また今年度次年度以降、3月に中止になった『多様な人権尊重のための「生きづらさ」を理解する連続講座』がプログラムに反映できると良い。

・センターのボランティアに関わっている人が30年度と令和元年度とを比べると増えている。非常に良い傾向で、これこそまさにボランティアインフォメーションセンターの目指すべき姿の一つであり、多くのボランティアの人を巻き込んでセンターの運営をしていくということの成果が顕著に出ている例だと思う。

・センターがならママを応援するボランティアを含めNPO等コラボして事業をしていると思うが、団体単独では集まらなかった参加者も、センターと一緒にやることで参加者が増えたりする。限られた資源の中でセンターも多様な分野のことは出来ないなので、これからも良い面で人を巻き込んで協働してやっていくのが、両者にとっても良いことかと思う。

・『多様な人権尊重のための「生きづらさ」を理解する連続講座』のポスターが大変良い。素晴らしい出来だがセンターで作ったものか。

→当センターの講座担当者が作ったものである。広報術というセミナーを開催しており、その先生にも色々教えてもらったり、今までの経験を生かしたりして作成した。

Ⅲ. 平成30年度奈良市ボランティアインフォメーションセンター利用者アンケート及び、平成30年度・

元年度奈良市ボランティアインフォメーションセンター登録団体アンケートについて事務局から説明を行った。主な意見は以下の通り。

- ・自由記述については、ある意味好き勝手に書いている人もいるので、全てを正面から受け止める必要はないが、利用者としてはもっともな要望もある。随時返答はされていないと思うが、どういう対応をされているか伺いたい。

→飲食をしたいという要望については、はぐくみセンター自体が飲食禁止になっており、管理室にも話したが、今の段階では認めないとなっており、水分補給は柔軟に対応をしている。

公衆電話の設置要望については、JR 奈良駅前に2台あり、利用者数を考えると費用もかかるので設置は難しいという返答があった。そういう話その後直接あった際には、その旨をお伝えしている。アンケートについては個別に答えるのは難しいが、直接窓口で要望があった場合は、その場で対応出来る時はお答えし、予算が必要になる要望の場合は、本課や管理室に相談している。なかなか全てを対応することは出来ないが、都度確認や相談は行っている。

- ・個人のアンケートについて、70歳以上の方の回答率が高いが一般に来られる方の平均的な年齢層か。

→だいたい60代が中心になる。

- ・団体アンケートについては、グラフをみると例年と大幅な変化はなさそうだが、少しずつ変化してきたことや、長期的なスパンで見えてきたことはあるか。

→傾向的には、同じような団体が回答していただいているので、大きくは変わらない。

- ・普段は回答していない団体の声が聞けるツールやアンケートの仕方の工夫があればよいと思う。

→アンケートの項目が多いので、今後は項目を厳選して答えやすくする方向で考えている。

②令和2年度事業計画について

IV. 令和2年度奈良市ボランティアインフォメーションセンター事業計画について事務局から説明を行った。主な意見は以下の通り。

- ・新しいキャラクターはユニーク、斬新な試みなので市民の皆さんに浸透すれば良いと思っている。

- ・リサイクルリユースは1人5冊まで返却なしで持って帰って良いのか。

→そうである。寄贈の場合はポイントを付与している。

- ・プラレールも同じように持ち帰りは出来ないのか。

→検討したが、今でも同じ形状で市販されているため、リサイクルで渡すことは好ましくないのではないかと、集まった数が多くなったので団体がイベント開催するとき等に子どもが遊べるように使用して貰っている。

- ・予定されている事業はコロナウイルスの影響で中止になったり参加者数を減らしたりと影響を受けているようだが、会議室の利用や施設設備の利用は一定の制限の中では使用できるのか。

→各部屋の定員を半数にし、窓がないのでドアを開放した上で扇風機を使用し外に風を送り出すようにして貰っている。また、使用前に消毒液をお渡しし気になる場所を消毒して貰っている。使用後は職員が部屋の消毒を行い、使用団体の間隔を30分以上あけるようにしている。交流コーナーは閉鎖、パソコンコーナーのパソコンも今は使えない状況。

- ・制限がある中でも、会議室を使われないという団体は会議をしていると思うが会議の頻度や利用等も減っているのか。

→会議室の定員数を半数にしているので広く利用されることになり、1団体が多く部屋を利用されること

になるので1日に利用される団体数としては減っている。利用されたい団体は多いが、現在会議室がとりにくい状態である。

・予定されていた事業は集まったの講座タイプが多かったと思うが、団体との交流や意見交換の場をオンラインでされたりとかは考えているか。

→センター利用されている方の年齢層が60代70代中心で、オンラインの会議の仕方がわからないという相談も受ける。センター内にはメディアルームを設置し、そちらを使っていただくということもしているが、なかなかオンラインにて皆で繋がるという状況が作れない、知識がないという相談も受けていたので、ホームページでzoomでのオンライン会議のやり方を公開した。そういったことが浸透していくと将来的にはそういうことも出来るかと思っている。

・母世代や若い世代の団体がオンライン会議をしていたりとかはないか。

→今までやっていたような団体交流会はHugHug祭りに参加する全団体が集まっていたものになるので、全団体では難しいかもしれないが、小規模では出来るかもしれない。模索しながらやっていきたい。

・他都市でも地域の支援組織の方とか、年配の方向けにオンライン会議のやり方の講習をしたり、集まって貰いながら使い方を教えたりということをしているので、チャンスがあれば少しずつ関わっていける環境づくりをしていければ良いと思う。

全体的なことに関してのご意見

・今年度事前に会議資料をメールで送付して貰えたので、事前に確認することができた。今後もそうしてほしい。

・講座自体に、担当者の自己評価を入れてほしい。講座を主催した人の意図が正しくできたか、人数が集まったか、内容はどうだったかを評価することで次に繋がると思う。他のセンターへ問い合わせせてみて、確認してみても良いのでは。

→他センターへ問い合わせせて、職員と相談して検討する。

・コロナ渦でコーディネーターの方々はどのような働き方をされていたのか。雇用は守られていたのか。

→雇用は守られていた。閉館されていた際は、在宅勤務を交替で行い自己学習等を行っていた。

3 閉会

以上